

タイトル	The Doubtful Guest				
著者（文・絵）	Edward Gorey				
出版年	1957 年	出版社	Houghton Mifflin Harcourt		
翻訳版	『うろんな客』柴田元幸訳、河出書房新社、2000 年				
総語数	260 語	ページ数	48 ページ	YL レベル	N/A
あらすじ					
舞台は、恐らく 19 世紀から 20 世紀初頭のヴィクトリア様式のお屋敷。ある冬の日、どこからともなく妙なお客がやってきます。小さくて黒くて顔はわかりません。人間なのか、動物なのか、はたまた宇宙人なのか判別がつきませんが、見る者をぎょっとさせるような様子をしています。その客は、家に入るや壁に鼻を押しつけ、家の者が何を言っても聞き入れず動こうとしません。皿を食べ、蓄音機を壊し、本を破り、怒るとタオルを隠すなど奇矯な行動を繰り返します。やがて 17 年が過ぎますが、お客はまだ居座り続けています。					
紹介					
「怪しげな客」は、表紙を見るとどうやらコンバースのスニーカーを履き、ハーヴァード大学の学生が着用するストライプのマフラーを風になびかせています。一体何者なのでしょう。人間にも見えるしペンギンやペリカンのような動物にも見えます。大人にも見えるし子どもにも見えます。人間だとするなら、人種は？国籍は？お屋敷の女性たちは裾の長いドレスを着用していますから、舞台は 19 世紀を思わせるのですが、そうだとするとコンバースのスニーカーを履いた「怪しげな客」は未来からやってきた闖入者なのでしょう。作者のゴリー自身がハーヴァード卒でコンバース好きだったことから、これは作者の分身なのでしょう。とにかく謎の多すぎる絵本です。白地のキャンバスに黒の線画のみで描かれたイラストは無機質で、人物たちにも表情がありません。だからこそ、読者には解釈の余地がたくさん残されます。授業で読んだとき、学生たちは最初途方にくれたようです。 とはいえ、何回も読んでいると、次第にこの怪しげな客が可愛らしく見えてくるのです。小さな目の玉の動きが、この生き物の感情の動きをかすかに伝えています。その表情を読んでみた私のひとつの解釈は以下の通りです。作者ゴリーにとっての現代（といっても本書の出版が 1957 年ですから 1950 年代）から過去の世界にやってきたお客は、最初は好奇心を持ってお屋敷の中を覗き込んでいますが、屋敷の家族の反応にここへ来たことを後悔します。が、翌朝になると再び好奇心が蘇り、現代の世界にはないもの（蓄音機、煙突、古い書籍や絵画など）にちょっかいを出し始めます。しかし、やがて精神を病み始め、怒りの発作が起こり夢遊病の症状が現れるようになります。未来に帰ることもできない「お客」は、諦観と感情の鈍麻からただじっと座っているうちに、17 年という月日が経ってしまったのです。 「怪しげな客」が、周囲とは異質な存在の表象であることは間違いありません。授業で使用する際は、それがどのような異質さなのかを学生に考えさせるとよいでしょう。人種					

問題を想像する学生もいれば、移民問題を想起する学生もいるでしょう。学生にとって最も身近なのはいじめ問題かもしれません。あるいは、現在の自分が過去の自分とは異質な存在になってしまったことからくる疎外や孤独がテーマでしょうか。ゴーリーが描く 19 世紀と 20 世紀のギャップは、現代の読者にとっては、20 世紀と 21 世紀のギャップとして捉えることができるかもしれません。解釈の可能性は尽きませんが、それぞれの読みを学習者に発表してもらい比較検討すると、たった 150 語の絵本から多様な読みが広がるはずです。

指導ポイント、授業活用例、学生の声など

【ポストモダン絵本 (post-modernist picture book)】

詳細は、本 HP の *Voices in the Park* のページを参照のこと。

【授業活用例】

➤ ポストモダン絵本を使ったグループディスカッション

この活動は、本 HP で紹介している他のポストモダン絵本 *I Want My Hat Back*, *Voices in the Park*, *Into the Forest*, *The Lost Thing*, *It Might be An Apple* などと組み合わせて行います（これらの絵本については、本 HP の他のページを参照のこと）。ポストモダン絵本は読者に多様な解釈を促すので、ディスカッションに用いると、参加者は 1 人で読んだだけでは気づくことのない新しい視点、物の見方に気づくことができます。

手順

Lesson 1

1. ポストモダン絵本とは何かについて教師が説明する。
2. 6 冊の絵本を学生に回し読みさせ、最も気に入った絵本を選ばせる。
3. 学生の第一希望を考慮しつつ、絵本ごとに 4～5 人ずつのグループを作る。
4. 次の授業までに、選んだ絵本についてあらすじ、登場人物の特徴、テーマ、その他ディスカッションで話し合いたい問いなどを準備させる（ワークシート配布、下記参照）。

Lesson 2

5. 選んだ絵本についてグループディスカッションを行う（30 分～45 分）。
6. ディスカッションで話し合った内容をクラスで発表する（各グループにつき 10～15 分程度）。発表の際には、パワーポイントや手書きのフリップなど視覚資料を使用するよう指示する。

【学生の声】

- この絵本のテーマは、奇妙な生物に対して家族が一つにまとまるということだと思う。
- *The Doubtful Guest* の中で最も重要だと思ったのは最後のページです。このページには 17 年経っても家を出ていく様子のない奇妙な生き物とそれに対する家の人々の表情が描かれています。筆者の伝えたい内容が何であるにせよ、17 年たっても容姿

に変化のない生き物の描写やそれに困惑している、あるいは呆れ果ているようにも見える家族の状況がこの本の内容を象徴するページだと思います。

- この生き物が何を表しているかについては、現代の子供、移民あるいは自分勝手な現代人などがあると考えました。

関連作品・参考 URL

【Edward Gorey による他のお勧め絵本】

- *The Bug Book* (『むしのほん』 柴田元幸訳、河出書房新社、2014 年)
- *The Gashlycrumb Tinies* (Houghton Mifflin Harcourt, 1997) (『ギャシュリークラムのちびっ子たち—または遠出のあとで』 柴田元幸訳、河出書房新社、2000 年)
- *The Hapless Child* (Thames & Hudson, 2017) (『不幸な子供』 柴田元幸訳、河出書房新社、2001 年)
- *The Loathsome Couple* (Peter Weed, 1986) (『おぞましい二人』 柴田元幸訳、河出書房新社、2004 年)

このほか、絵本多数。以下は作品集です。

- *Amphigorey; Fifteen Books* (Tarcher Perigee, 1980)
- *Amphigorey Too* (Tarcher Perigee, 1980)
- *Amphigorey Also* (Mariner Books, 1993)
- *Amphigorey Again* (Mariner Books, 2007)

【その他】

ゴーリーの作品は人形劇団ひとみ座によって過去数回人形劇になっています。ご興味のある方は、以下のサイトにアクセスすると公演情報が得られます。

<http://hitomiza.com/news/000449.html>

cf. 参考ワークシート

Reading Picture Books for Shared Reading

Student ID _____ Name _____

Title of the picture book you chose _____

Before the Discussion

➤ What are the objective facts of the story? List them below.

➤ Fill out the table below. (Character の数は作品によって適宜変更)

	Character A	Character B	Character C	Character D
How old is he/she?				
What can we tell about the character from the way he/she speaks or behaves?				
Anything else in the book that gives information about the character				
What page is the most important for the author ⁽¹⁾ ? Find the core idea ⁽²⁾ of the picture book.				

© Just Imagine Story centre Ltd.

注(1), (2)

作者の視点を意識させるための問いです。作者がその本の「肝（きも）」であると考えているページはどこかを探します。Core idea とはその「肝」のことです。本の「核」となるアイディア、あるいはその本の「種」と言えいいでしょうか。作者はなんとなく本を書き始めているわけではなく、なんらかの「種」から本を育てていくと考えられます。それは必ずしも明確なメッセージやテーマではないかもしれませんが、しかし、その「種」がなければ、その本は生まれなかったような「着想の原点」が本のどこかに隠れているはずです。それを、作者が描き込んだ言葉やイラストの中に探す活動で

す。もちろん、決まった解答はありませんので、ディスカッションで最も盛り上がる問いです。

During the Discussion

Write two questions that you would like to ask your classmates. Then provide answers to the questions.

Question 1 + your answer (事前に用意しておき、ディスカッション中に発表する)

Your classmates' answers (ディスカッション中にメモする)

Question 2 + your answer (事前に用意しておき、ディスカッション中に発表する)

Your classmates' answers (ディスカッション中にメモする)

After the Discussion

Write a short review of _____ (title) for class presentation

_____ (title) is about _____

What attracts the reader to this book is that
